

原田式智歯抜去鉗子

13B3X00365000105

滝口弘毅

はじめに

最後方臼歯とくに智歯の抜歯には困難な症例が多く
歯科医師を悩ませます。

恩師 原田良種 先生はフィジックス氏の下顎智歯用
鉗子の形態に改良を加え、バリー氏のエレベーターを
左右組み合わせ、片手で扱えるようにし、最後臼歯
とくに智歯の抜歯を楽にした鉗子を開発されました。
抜歯の前にレントゲンで歯根の状態をみて、歯根が
遠心方向に曲がっていて単純な形態をした歯牙は
適応症です。反対に多根歯で複雑な形態をしている歯牙は
非適応症です。



使い方

通法にしたがい麻酔をし、環状じん帯を切断し、上顎智歯を例に説明すると

- A 智歯と第二大臼歯の隣接面に鉗子を挿入し、鉗子の先端を智歯の根面に接触させ歯根方向に深く押し込みます。
- B 鉗子をかろく握りながら手元を下げつつ右側智歯ならば右外側（左智歯ならば左外側）方向へ回転すると歯牙は簡単に脱臼します。（下顎は鉗子を内側へ回転する）
- C 脱臼した歯牙は適当な鉗子で摘出すれば抜歯が終了です。



後書き

この鉗子は恩師原田良種先生が直接(有)木村鉗子製作所を指導して製作したものです。
原田先生の解説を弟子の私滝口弘毅が易しく書き直しました。
先生方の臨床のお役に立てば幸いです。

(有)木村鉗子製作所

一般医療機器 製造販売業 13B3X00365

東京都墨田区向島 1-18-9
TEL.FAX 03-3623-1232
E-mail Kimura.kanshi@nifty.com
<http://www.kimura-kanshi.com/>